

開催要項

●日時 2025 年 10 月 9 日(木) 13:00 開会
10 月 10 日(金) 11:40 閉会

●会場 メイン ホテル青森 | 青森市堤町 1 丁目 1-23
サブ モルトン迎賓館 | 青森市青柳 2 丁目 1-15

●会費 27,000 円

※消費税法基本通達 5-5-7 に該当する共同行事のため、課税仕入れにはしないようにお願いします。

アクセス

■青森駅から
市営バス乗車→「橋本小学校前」下車
タクシー:約 1,000 円

■新青森駅から
JR 在来線乗車→「青森駅」下車→市営バス乗車→「橋本小学校前」下車
市営バス乗車→「橋本小学校前」下車
タクシー:約 2,500 円

■青森空港から
空港連絡バス乗車→「新町 2 丁目」下車
タクシー:約 5,000 円



スケジュール

1日目	13:00 分科会開始	17:50 分科会終了	18:30 懇親会開会	20:30 懇親会終了
2日目	9:00 全体会開会	分科会報告	記念講演	まとめ
				11:40 閉会

オプションツアー



北の霊場 恐山見学ツアー

本州最北の霊場として名高い「恐山」。静謐な雰囲気にも包まれた恐山の風景と、その歴史に触れるバスツアーです。世界夜景遺産にも登録された釜臥山からの「アゲハチョウの夜景」見学など、雄大な景観もお楽しみいただけます。



10.10 | 金 |

11:45 会場出発
15:30 ~ 16:30 恐山見学
17:00 ~ 17:30 釜臥山展望台見学
むつブランドホテルへ移動・夕食交流会

10.11 | 土 |

9:30 むつブランドホテル出発
青森駅・新青森駅・青森空港に
順次立ち寄り解散

参加費 33,000 円

先着順
定員最少 17 名 / 定員 22 名
催行人数

第 23 回 障害者問題全国交流会 in 青森 参加申込書				申込締切 9.24 水
会社名		分科会	第 1 希望	第 2 希望
役職				
ふりがな		オプションツアー (会費別)	連絡先 (携帯電話) ※ツアー参加者の方のみご記入ください。	
お名前		参加		

※お申込みは、所属同友会までお願いします。※会場の関係などで第 2 希望の分科会になる場合もございます。ご承知おください。※本登録内容は行事運営のために中間協の管理のもとに参加者名簿に活用し、それ以外に使用することはありません。※本行事の模様を撮影・録音し、記録されたものを印刷物やインターネット上で公開させていただくことがあります。参加者の皆様の写真が掲載されることがありますので、不都合がございましたら所属同友会事務局までご連絡ください。※9 月 25 日(木)以降のキャンセルは、会費を全額ご負担いただきます。



第23回 障害者問題全国交流会 in 青森

共に生きるみらいへ
～青い森から手を携え、新しい世界へ踏みだそう～

2025年

10月9日木・10日金

開会 13:00

閉会 11:40

会場: ホテル青森・モルトン迎賓館

青森市堤町1丁目1-23

青森市青柳2丁目1-15

〈会費〉27,000円(懇親会費込)

表紙画/石澤暁夫

多様性の社会、お互いの価値観を受容する心を持ち、一人ひとりの個性が輝き、未来に羽ばたくイメージ。天から光が注がれ、希望に満ちた風の時代を祝う。

◆主催: 中小企業家同友会全国協議会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル3F
tel.03-5829-9335 fax.03-5829-9336 https://www.doyu.jp

◆設営: 青森県中小企業家同友会

〒030-0931 青森県青森市平新田字森越12-28-2F
tel.017-752-0171 fax.017-752-0170 http://aomori.doyu.jp/

誰もが輝く働き方 新しい世界へ共に踏みだそう

実行委員長あいさつ



一般社団法人 日々木の森

代表理事

立崎 文江 氏



有限会社 ローズリー資源

代表取締役

田中 桂子 氏

2009年6月、第13回女性経営者全国交流会が青森の地で開催されました。それから17年の時を経て、第23回障害者問題全国交流会で全国からの参加者をお迎えします。2023年に青森での開催が決まって以降、愛知で行われた第22回障全交へ20名以上が参加し、各月で事前学習会を行い、気運を高め準備を進めてきました。

スローガンは「共に生きるみらいへ ～青い森から手を携え、新しい世界へ踏みだそう～」です。青森同友会では2023年にそれまでの「共に生きる障がい者問題委員会」から「共に生きるみらい委員会」へと名称を改めました。時代の変化とともに、障がいをもった人だけではない、さまざまな生きづらさ・働きづらさを抱えた人達すべてを応援する意味が込められています。折しも、今年は1975年に発表された「中小企業における労使関係の見解（労使見解）」が50年を迎えました。今回の分科会は、労使見解、人間尊重の経営、共育、人を生かす経営の実践の理解を深め、新しい時代の働き方について学び合えればと思います。

青森障全交を通して新しい気づきと学びを創造できることを確信し、当日全国の皆さまにお会いできる事を楽しみにしております。

中同協としての意義と目的

1. 人を生かす経営の実践で「幸せの見える共生社会の実現」をめざす取り組みについて学び合う。
2. 障害者問題および障害者雇用について関心を深める。
3. 全国各地の同友会に障害者問題の取り組みの輪を広げる。
4. 「労使見解」発表から50年にあたり、成果と教訓を確認しながら今後の運動を展望する。

青森同友会の開催意義

1. 地域社会づくり～すべての人たちと共に歩む中小企業
障がい者雇用に限らず、すべての「生きづらさ、働きづらさ」を抱える人たちに光を当て、中小企業と共に歩みだすきっかけとする。
2. 中小企業家づくり～中小企業家の矜持
中小企業「家」は、地域に仕事と雇用を生み出す存在、「0 から 1」を創造する存在であることを確認し、日本経済 / 地域経済の主役であることに誇りを持つ機会とする。
3. 同友会づくり / 組織づくり
17年ぶりに全国行事を設営するにあたり全県一丸となって準備を進め、青森県内に同友会運動を広げて過去最高会勢の 419 名 (2023 年度内) を突破し 500 名会勢の実現を目指す。

1日目 | 10.9 (木) 分科会

第 1 分科会 | 中同協 「労使見解」50年



パネリスト
株式会社 吉村

代表取締役
広島同友会理事 (廣総会・経営フォーラム担当)

中同協青年部連絡会 副代表 (中国ブロック)

山西 健三 氏

設立 1979 年

資本金 5,000 万円

年商 73 億円

社員数 490 名 (内パート・アルバイト 363 名)

事業内容 自動車買取販売・飲食サービスなど

URL <https://www.ekura.co.jp/>



パネリスト
株式会社 伸電

相談役
宮城同友会 相談役

原田 誠 氏

設立 1976 年 ※創業 1975 年

資本金 3,000 万円

年商 3.7 億円

社員数 22 名

事業内容 電気工事業、管工事業、製造業

URL <http://www.e-shinden.com>



パネリスト
株式会社 マスカット薬局

代表取締役
中同協障害者問題委員長

岡山同友会顧問

高橋 正志 氏

設立 1998 年

資本金 1,000 万円

年商 31 億円

社員数 101 名 (内パート・アルバイト 2 名)

事業内容 薬局、保険調剤 (各種保険取り扱い)

URL <https://muscat-pharmacy.jp/>



コーディネーター
一般社団法人

広島県中小企業家同友会

専務理事

源田 敏彦 氏

URL <https://www.hiroshima.doyu.jp>

「労使見解」50年

～障害者問題委員会と運動課題～

労使見解発表から 50 年を迎えたいま、各パネリストの障害者問題への取り組みに学び、人を生かす経営の輪を広げる契機とします。共生社会の実現に向けて、人間尊重の経営を追求しながら取り組んできた本委員会の歴史と理念、またその意義を確認するとともに、活動が多様化する中で障害者問題とどう向き合うべきなのか、今日的成果や課題を確認しながら今後の運動を展望します。

第 2 分科会 | 愛知

人を生かす経営の実践－障害者雇用の取り組みの視点で



株式会社 中央技研

代表取締役

小島 正寛 氏

設立 1989 年

資本金 1,000 万円

年商 7,200 万円

社員数 7 名 (内パート・アルバイト 1 名)

事業内容 バイブ及びアルミ型材の R 曲げ加工

URL <https://www.r-chuuou.com/>

人を思う心が強い会社をつくる！

～それは社長の決意から始まった～

過去、障害のある社員を雇用し続けられなかったことをきっかけに、社員と話し合い、誰もが安心して働ける労働環境を整え、再び障害者を迎えます。しかし、次第に社員たちの不満は募り、社長自身が障害のある社員に向き合う姿勢を見せ、社内をまとめていきます。それは、成長の可能性を学ぶ日々でした。障害者との関りから経営者や会社がどう変化してきたのか、その実践を報告します。

第 3 分科会 | 神奈川

真の人間尊重経営の社会へー多様な人材を生かす



株式会社 エイチ・エス・エー

代表取締役

田中 勉 氏

設立 1999 年

資本金 1,000 万円

年商 10 億 9,000 万円

社員数 320 名 (内パート・アルバイト 220 名)

事業内容 総合生活支援事業

URL <https://www.hsa-w.co.jp>

人間尊重の経営を根幹に据えて！

～自主性を伸ばす仕組みづくり組織づくり～

同社は、社員の自主性を尊重しながら、収益もしっかり確保し、1999 年の創業以来黒字経営を継続しています。毎年事業は拡大して職員も増員。離職率は 2%、経常利益率は安定的に 8% を維持しています。2016 年には、「第 6 回日本でいちばん大切にしたい会社」アワードにおいて厚生労働大臣賞を受賞し、働きやすい環境づくりとして評価され、今では地域で誰もが知る会社に成長しています。

第 4 分科会 | 滋賀

共に学ぶ、共に生きる、共に育つ



宮川/パネ工業 株式会社

代表取締役

宮川 草平 氏

設立 1959 年

資本金 4,000 万円

年商 5 億円

社員数 39 名 (役員除く) (内パート・アルバイト 17 名)

事業内容 金属/パネ製造

URL <https://m-b-k.co.jp/>

同友会運動の実践で社員満足度 87%の会社に

～ボンクラ後継者を救った同友会～

会社をつぶす典型的なボンクラ三代目を自認する宮川氏は、ボロボロの事業承継から同友会で学んだ指針経営・社員共育・新卒採用を愚直に実践し続けてきました。気づけば、障がい者雇用率も 10% を超え、もにす認定も取得し、会社に「誰もが働きやすい会社をつくろう」という風土が出来上がるまでになりました。特別なことはしない、人を生かす企業づくりに取り組んできた過程をご報告いただきます。

第 5 分科会 | 青森

一歩踏み出す－障害者問題に関心を



パネリスト
株式会社 吉村

代表取締役社長

橋本 久美子 氏

設立 1954 年

資本金 9,100 万円

年商 55 億 6,500 万円

社員数 246 名 (内パート・アルバイト 3 名)

事業内容 食品包装資材の企画、製造、販売

URL <https://www.yoshimura-pack.co.jp/>



パネリスト
株式会社 吉村

商品管理課 課長

長谷川 智巳 氏

設立 1954 年

資本金 9,100 万円

年商 55 億 6,500 万円

社員数 246 名 (内パート・アルバイト 3 名)

事業内容 食品包装資材の企画、製造、販売

URL <https://www.yoshimura-pack.co.jp/>



パネリスト
有限会社 ローズリー資源

代表取締役

田中 桂子 氏

設立 1996 年

資本金 1,250 万円

年商 2 億 8,000 万円

社員数 36 名 (内パート・アルバイト 13 名)

事業内容 一般廃棄物収集運搬、産業廃棄物処理

URL <http://www.rozeuri.com/>



コーディネーター
有限会社 工藤板金工業

専務取締役

市川 恵子 氏

設立 1978 年

資本金 800 万円

年商 4 億 2,000 万円

社員数 14 名 (内パート・アルバイト 3 名)

事業内容 屋根板金工事

URL <https://www.kudou-bankin.co.jp/>

共に生きる未来を目指して

～はじまりは一歩踏み出すことから～

生きづらさ、働きづらさを抱えたすべての人々が社会の中で自分らしく輝けるよう共に学び、共に成長する道を考えます。障がいのある方に留まらず児童養護施設出身者、刑務所出所者、LGBTQ+ の当事者、難病を抱える人々との「共に働く、共に生きる」について、パネリストの具体的な事例報告を通して私たちが手を携え、どのような未来を描いていくのかを深く学びます。

2日目 | 10.10 (金)

記念講演



株式会社 東奥日報社

八戸支社長

松林 拓司 氏



初代高橋竹山孫弟子

ちくしゅん

高橋 竹春 氏



初代高橋竹山

盲目の津軽三味線奏者・高橋竹山の軌跡に学ぶ ～ 0 から 1 を生み出す音楽「家」と中小企業「家」～

「家」という文字が職業につく人々は音楽家、画家、農家、小説家など何も無いところから価値を生み出し、0から1を生み出す存在です。そして、私たち中小企業家もまた地域に仕事と雇用を生み出す、クリエイティブな存在です。

青森県が生んだ偉大な津軽三味線奏者である初代・高橋竹山。彼は幼少期に患ったはしかが原因で幼くして視力のほとんどを失います。当時の障がいをもった人に対する差別やいじめは、今日からは想像もできないほど酷いものでした。そんな環境で十代半ばにしてボサマ (盲目の旅芸人) となり、家々を門付けして回った竹山少年は、いかにして津軽三味線の第一人者になるまでの道を辿ったのか。彼の人生と時々で出会った人びととの交流やエピソードから、中小企業「家」としての矜持、あり方について考えます。

講師は竹山の生い立ちから最晩年までを新聞記者として丹念に取材し地元紙・東奥日報に連載、のちに「魂の音色」として出版された書籍の執筆者である松林拓司氏です。講演後には初代高橋竹山の孫弟子にあたる高橋竹春氏による生演奏も行います。